

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育内容言葉 Content of Childcare (language)		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程必修・教職課程必修 (幼稚園教諭二種))	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
障害児保育Ⅰ・Ⅱ、幼児心理学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格・幼稚園教諭二種免許未地区に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚登	本館2階	火・水・木・金曜日の9～17時		授業中に指示します
授業の概要				
乳幼児の言葉の特徴や発達について理解し、「聞くこと・話すこと・伝え合うこと・文字を使うこと」の基礎的な力を育むために保育者はどのように支援したらよいのか、言葉がけや環境構成、子どもの生活に関係が深い児童文化財を通して言葉の美しさ楽しさを育むことについての理解を深めることを目的とする。保育現場の課題では今までの実習経験と幼稚園教育要領他を比較照合し、言葉の美しさ楽しさを育む視点で児童文化財を再発見することにより目標到達を目指す。				
授業の目標				
①乳幼児の言葉の発達を説明できるようにする。 ②乳幼児の発達に応じた適切な言葉がけ・環境構成ができるようにする。 ③乳幼児の発達に応じて、言葉の美しさ楽しさを育む児童文化財を提供できるようにする。				
授業の方法				
言語発達の理解では授業者の講義中心に進め、保育現場の課題では実習を振り返っての発表を通し情報を共有化する。児童文化財の理解では様々な児童文化財を調べ、個人(一部グループ)で発表を行う。児童文化財の発表は「ことばの美しさ楽しさを育む」このにふさわしいものを選んで発表する。				
学習の成果(学習成果)				
①乳幼児の発達に即した、「聞く」「話す」言語環境を構成できる。 ②言葉を育む児童文化財への知識が深まり、レパートリーが増える。 ③言葉の美しさ楽しさの観点をもって絵本を選び、絵本の読み聞かせの技術を向上させることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業法、評価の説明)、各要領・保育所指針における「言葉のねらい」解説 小テスト			
第2回目	乳児期の言葉の発達(胎児期から始語期まで、母親との応答)解説 小テスト			
第3回目	幼児期の言葉の発達(2語文期以降、社会性の発達)解説 小テスト			
第4回目	構音発達(構音障害を含む)解説 小テスト			
第5回目	言葉の遅れ(障害がある子ども、外国語が母語の子ども)解説 小テスト			
第6回目	乳幼児期の言葉の発達のまとめ レポート			

第7回目	保育現場の課題（言葉を交わす喜びを味わう）発表 ワークシート
第8回目	保育現場の課題（言葉で伝え合う）発表 ワークシート
第9回目	保育現場の課題（相手に分かるように話す・言葉で表現する）発表 ワークシート
第10回目	保育現場の課題（あいさつ・生活の中で必要な言葉を使う）発表 ワークシート
第11回目	保育現場の課題（文字の取り扱い・環境構成）発表 ワークシート
第12回目	言葉の美しさ楽しさを育む児童文化財（幼児曲や手遊びから）発表 ワークシート
第13回目	言葉の美しさ楽しさを育む児童文化財（パネルシアター他から）発表 ワークシート
第14回目	言葉の美しさ楽しさを育む児童文化財（ことば遊びから）発表・作成 ワークシート
第15回目	言葉の美しさ楽しさを育む児童文化財（絵本や紙芝居から）発表 ワークシート
事前・事後学習	今までの実習を踏まえ、要領・指針のねらいがどのような形で具現化されていたかをまとめておく。また、言葉の美しさ楽しさを育む児童文化財の発表から、自分の好みのリストをまとめる。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート	10%	母体内から3歳頃までの子どもの言語発達（音声知覚と母子のコミュニケーション等）のまとめレポート10%。
調査報告書		
小テスト	80%	小テストは穴埋め問題或いは授業内容を手短かにまとめる形をとる（6%×5回=30%）。ワークシートは必要な項目について書き込みがなされている（6%×5回=30%、5%×4回=20%）。
試験		
発表内容（態度含む）	10%	調べた内容を聞き手に分かりやすいよう自分のことばでまとめ（5%）、手際よくゆっくり大きな声で発表している（5%）。
その他		

教科書と参考図書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

履修上の留意点・ルール

ワークシートの記述には、電子辞書を積極的に活用してください。